

第1章 基本構想の策定に当たって

1 背景と趣旨

現在の体育センター（昭和45（1970）年建設）は、アリーナ面積が916㎡（バスケットボール1面又はバレーボール2面）で、県内他自治体の施設と比較しても狭小な施設となっています。一方で、利用者数は本市のスポーツ施設のなかで一番多く（約5万1千人/年）稼働率も100%となっており、老朽化した施設の整備充実を図ってほしいという市民のニーズが高まっています。また、建設後約50年が経過し、老朽化とともに耐震性にも課題があることから利用者の安全性の確保が重要な課題となっています。



日向市体育センター

併せて、厳しい財政状況や将来の人口減少を見据えた施設のあり方や複合化の検討も必要な状況となっており、さらに多発する自然災害に備えた避難拠点としての整備や多様化する市民ニーズにこたえる設備の充実も求められていることから、優先的に整備を進めていく必要があります。

このような状況を踏まえ、市民の幅広いニーズに対応し、スポーツや健康づくりを推進するとともに災害時に拠点施設となる施設の整備を目的に、「日向市総合体育館整備基本構想」を策定します。

2 検討の経緯

総合体育館の整備については、市民の健康増進や競技力向上、またスポーツを通じた交流による地域活性化等を図るため、平成29年3月に策定された「第2次日向市総合計画」の重点戦略の中で『体育館の整備推進』が示されるとともに、「日向市総合体育館建設基金」を設置し、総合体育館建設のための財源の確保に着手しました。また、平成30年5月には「日向市スポーツ施設整備基本構想」を策定し、総合体育館を含むスポーツ施設全般のあり方や、その整備の方向性を示したところです。しかしながら、その後の経済状況や他自治体の整備計画等により、総合体育館整備に関する状況が変化してきていることから、体育館整備のコンセプト、必要な規模や機能等、施設の基本的な考え方を明確にするため、「日向市スポーツ施設整備基本構想」を参考に、改めて最新の現状分析を行い、体育館整備に特化した「日向市総合体育館整備基本構想」を策定するものです。

第2章 現状と課題

1 現状と課題

現在の体育センター及び武道館は、日常のスポーツ活動のほか、大会やイベント等の利用も多く、市内のスポーツ施設の中でも、高い稼働率となっています。しかしながら、建設後約50年が経過し、設備面や競技スペースの不足による施設への不満足度も高くなっていることから、市民の健康増進やスポーツ振興のための役割とともに、災害時の防災拠点としての機能を含めた新たな総合体育館の整備が求められています。

《現在の体育センター、武道館の状況》

施設	築年数	施設概要		耐震性
体育センター	49年	アリーナ	バスケットコート1面又はバレーコート2面	旧耐震基準
			延床面積 1,390㎡(1階 1,174㎡、2階 216㎡)	
武道館	46年	柔道場	延床面積 405㎡、柔道 1面	
		剣道場	延床面積 405㎡、剣道 1面	

《体育センター及び武道館の利用状況等の推移》

		利用者数（人）				
施設名	施設名称	H26	H27	H28	H29	H30
体育センター	アリーナ	46,502	52,687	56,775	55,562	51,173
	柔道場	8,975	8,975	8,875	8,128	8,750
武道館	剣道場	12,618	11,975	11,427	10,772	9,304
	計	21,593	20,950	20,302	18,900	18,054

2 市民のスポーツ施設に対するニーズ

「日向市スポーツ施設整備基本構想」策定の際に実施した市民アンケート調査では、機能強化すべきスポーツ施設について、お倉ヶ浜総合公園では「野球場」、大王谷運動公園では「陸上競技場」、その他のスポーツ施設では「体育センター」との意見が最も多く、利用頻度が高い体育センター等の充実を図ってほしいという市民のニーズが高いことがうかがえます。さらに、新たに必要とするスポーツ施設として、「総合体育館・武道館」が最も多く、自由意見でも総合体育館整備を望む意見が多く挙げられています。

第3章 総合体育館整備の基本的な考え方

1 総合体育館の必要性

総合体育館の必要性について、現在の日向市体育センター（昭和45年（1970）年建設）及び本市の現況や市民ニーズを踏まえ、主な課題を整理しました。

■主な課題

課題1	現在の体育センターは、建設後約50年経過し施設の老朽化が進み、また、新耐震基準を満たしておらず、耐震性にも課題があり利用者の安全性が懸念されている。
課題2	多様化する市民ニーズに応える設備の充実が求められている。
課題3	大規模災害時に長期的な避難所として対応できる施設が不足している。

以上の課題を解決するため

新しい体育館の整備

■整備にあたっての基本的な視点

視点	目指す方向性
安全性	○利用者の安全性の確保 ⇒ ※最優先事項 ・耐震性の確保
経済性	○コストバランスに配慮した施設整備。 ○厳しい財政状況、将来の人口減を見据えた施設のあり方・複合化の検討 ・建設にかかる市の実質的な将来負担額の抑制（国補助事業、有利な起債の活用） ・官民連携による設計・施工と施設供用開始後の維持管理・運営の一括発注等を行うことで、より良いサービスの提供等の実現が期待されるPPP/PFI手法の検討。 （国も交付金事業活用の際の導入検討を要件化する等、積極的な導入を求めている）。 ・老朽化した施設の解体、複合化による安全性、利便性の向上。 ・施設複合化により市全体の維持管理費の低減。
機能性	○ユニバーサルデザインに配慮した施設整備。 ○地区大会や県大会等の大規模な大会、イベントにも対応できる施設整備。 ○空調設備の整備。
防災性	○大規模災害時に長期的な避難所として対応できる施設整備 ・長期的避難を考慮し、非常用電源や貯水タンク等を備えた災害時の拠点としての施設整備。

2 基本コンセプト

総合体育館は、将来にわたって、子どもから高齢者まで広くスポーツや健康づくりに親しむことができる拠点施設として、今後求められる機能や役割を踏まえ、多くの市民に愛される体育館を目指し、以下のとおり、キャッチフレーズ、基本コンセプトを定めます。

★総合体育館のキャッチフレーズ

～未来へ向かい あふれる笑顔で多世代がつながる
海と緑に囲まれた“健康長寿・スポーツ推進”拠点～

基本コンセプト

市民の誰もが日常的にスポーツ活動、健康づくりに親しみ、利用できる体育館

様々なスポーツ大会が開催され、スポーツ交流やイベントの拠点となる体育館

災害時の拠点施設となる体育館

1 施設規模

「日向市スポーツ施設整備基本構想」では、国体等の活用を想定し、アリーナ面積を2,400㎡（バスケットボール3面）としていましたが、基本コンセプトである市民の日常的な利用に重点を置いた施設とすること、地区大会や県大会等の大会に対応できる施設とすること、延岡市に県立体育館が整備されること（R6年度完成予定）等を考慮し、市民検討委員会等での先進地視察や協議を踏まえ、総合体育館の基本的な施設規模を、以下のとおり見直します。

	スポーツ施設整備基本構想	今回の見直し
アリーナ	バスケットボール3面 又はバレーボール4面（約2,400㎡）	バスケットボール2面（公式47m×38m） 又はバレーボール3面（約1,900㎡）
武道場	武道場を併設	柔道場1面、剣道場1面
観客席	-	500席程度
諸室	備蓄倉庫等	多目的室、会議室、備蓄倉庫等

2 建設場所

総合体育館の建設場所については、「スポーツ施設整備基本構想」時に候補地として検討していたお倉ヶ浜総合公園は、5m以上の津波浸水想定区域内にある状況であり、新たな総合体育館は、災害時の避難拠点施設としての機能も兼ね備える必要があることから候補地から外し、現敷地のある市街地及び大王谷運動公園について、整備場所としての妥当性や財源等、多面的な視点から、総合的に検討を進めました。



その結果、「スポーツ施設整備基本構想」で“スポーツ力向上を牽引する市民スポーツの拠点”として位置づけられていること、津波浸水想定区域外に位置し、災害時の拠点施設としての役割も確実に担えること、建設に係る市の実質負担額が最も少なく経済性に優れていることなど、総合的に優位性の高い大王谷運動公園内に総合体育館を整備することを基本に、具体的な施設レイアウトの検討を進めます。

＜整備場所の比較検討＞

視点	市街地	大王谷
拠点性	・市民に慣れ親しんだ場所	・スポーツ施設が集積している
経済性	用地 ・市有地（現体育センター、旧警察署跡地等）については、想定している施設規模では、建設用地、駐車場用地等が確保できない。 ・民有地については、多額の用地費、補償費がかかる。また、相手方との交渉が必要なことから時間を要する。	・市有地 ・プールの老朽化、費用対効果の観点からプール用地での立地可能性あり
	財源 ・補助金が少ない ・ほぼ起債での整備となることから、将来負担額が大きい	・補助金あり（補助率1/2） ・交付税措置のある有利な起債あり
防災性	・津波浸水想定区域内	・津波浸水想定区域外
利便性	・現有地（体育センター）と立地環境が変わらず、JR日向市駅、国道10号線等からのアクセス性は高い。 ・周辺に飲食店やホテルが多い。	・JR日向市駅から約3kmの距離はあるが国道10号線と接続し、バス路線もある。（ぶらっとバス：平日5便、休日3便） 宮交：平日14便（往復）、休日7便（往復）

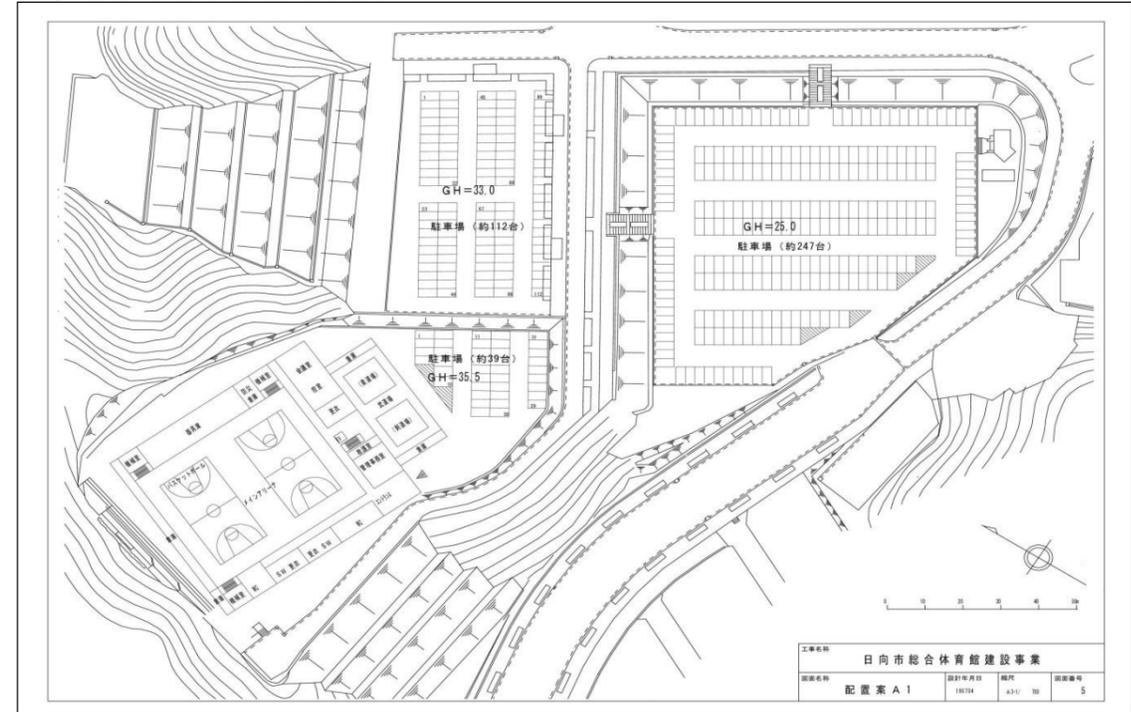
＜財源の比較検討＞

補助金	起債	市街地	大王谷
社会資本整備総合交付金（補助率）施設1/2・用地1/3	公共事業等債 充当率：90% （本来分50%・財対分40%） 交付税措置：あり（財対分の50%）	× 不適合地	◎ 国補助1/2 起債あり 交付税あり
学校施設環境改善交付金（補助率）施設1/3 ※延床面積4,000㎡が補助限度	学校教育施設等整備事業債 充当率：75% 交付税措置：なし	△ 国補助1/3 起債あり 交付税なし	△ 国補助1/3 起債あり 交付税なし

大王谷運動公園内には、野球場、陸上競技場、水泳場、弓道場、芝生広場が整備されていますが、いずれの施設も設置から40年程度が経過し、老朽化が進行していることから、改修等の整備が求められています。中でも、水泳場については、平成26年3月に策定した「日向市公園施設整備長寿命化計画」によると、プールの床や配管設備等、老朽化による大規模な改修が必要な状況となっています。また、開設期間が夏季約1か月間に対し、年間の維持管理費用は多額なことから、費用対効果の面からも、施設の廃止を含めた今後の整備方針についての検討が必要となっています。

このため、水泳場を総合体育館整備場所の候補地とし、施設の統廃合による効率的・効果的な整備を図ります。また、水泳場に総合体育館を整備した場合、芝生広場を駐車場として整備することを想定していることから芝生広場を主に利用されているグランドゴルフについては、陸上競技場等の活用等を検討します。

＜総合体育館、駐車場整備場所（案）＞



第5章 総合体育館整備の基本的な考え方

1 事業費・財源の検討

建設費については、「日向市スポーツ施設整備基本構想」では、類似団体を参考に30億～40億と見込んでいましたが、施設規模の見直しや近年の建設需要による工事費の変動など、詳細な分析が必要なことから、建設後のライフサイクルコストを含め、今後のステップである基本計画策定・基本設計時に検討を行う予定としています。また、建設には多額の費用を要することから、本市の他事業計画への影響や今後の資金計画についても十分に考慮しながら、健全な財政運営に影響をあたえないよう、事業規模や事業手法について、検討する必要があります。財源については、平成29年度から積み立てている「日向市総合体育館建設基金」に加え、国の交付金や有利な起債の活用のほか、PPP/PFI等の官民連携手法の導入によるコスト削減を図りながら、財政負担の軽減に努めます。

2 建設までのながれ

